

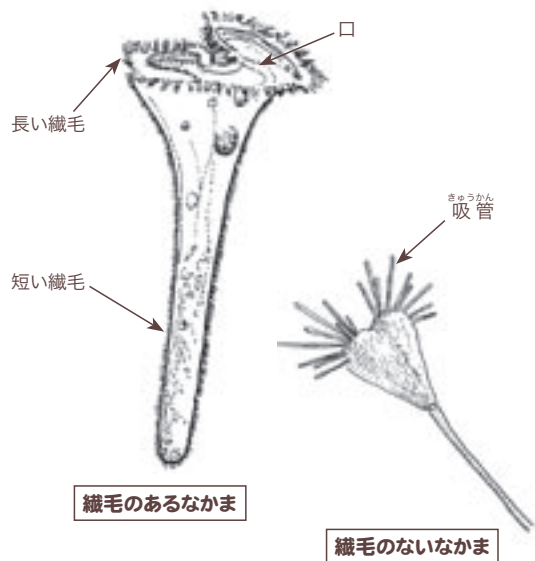
4 繊毛虫のなかま

(繊毛虫門：CILIOPHORA)

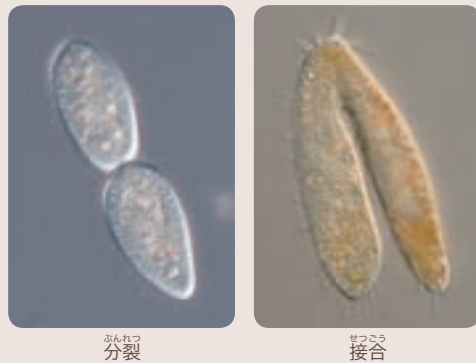
解説

繊毛虫のなかまは名前のおり、体の表面に細かい毛(繊毛)を生やしています。繊毛虫の中には吸管虫のなかまのように一見繊毛をもたないグループがありますが、吸管虫も子供のうちは繊毛をもっており、立派な繊毛虫です。

繊毛虫のなかまは手足がないためにどれも同じように見えます。しかし、よく観察すると、それぞれ繊毛の生え方や核の形や数、収縮胞の数や位置が異なります。とくに大きな分類基準は口です。繊毛虫を見つけたら、まず口の位置を確認します。口が体の先端にあるのか、あるいは側面にあるのが最初の分類基準です。ふつう口はへこんでいたり、そこだけ出っばっていたりします。また、口のまわりには多くの場合、特殊な繊毛が生えており、それを活発に動かしてエサを取ります。口が見えなくても、まわりの粒子の動きを観察することによって、口の位置を推測することができます。さらに、繊毛虫の特徴として遺伝に関する小核と、代謝に関する大核を1つ以上もっていることがあげられます。



TOPICS トピックス



顕微鏡で観察していると、2匹の繊毛虫が縦に並んでくっついていることがあります。これは分裂といって、1つの細胞が2つに分かれるところです。もし、横に2匹がくっついていたら、これは接合と呼ばれ、お互いに小核の遺伝情報を交換して、若返りをはかっているところです。

から (1) 殻のあるなかま

この図鑑にのせた属 チンチニディウム属、コドネラ属

から 「殻のあるなかま」の見分け方

やわらかい半透明な筒状の殻	かたいつぼ状の殻(口の手前でくびれる)
チンチニディウム属	コドネラ属

チンチニディウム属 *Tintinnidium*

チンチニディウム属の一種 *Tintinnidium* sp.



解説

やわらかい半透明な筒状の殻をつくります。

生息場所：湖やため池などにすんでいます。

細胞の大きさ 50~200μm

コドネラ属 *Codonella*

Codonella

解説

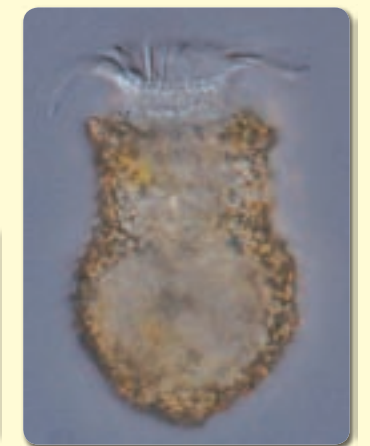
以前はチンチノプシスとも呼ばれていました。硬いつぼ状の殻をもっています。つぼの口の手前がくびれています。つぼの口から繊毛を出し泳ぎます。つぼから出たものはストロビリディウム属に似た形をしています。

生息場所：湖やため池などにすんでいます。

細胞の大きさ 60~70μm

コドネラ属の一種 *Codonella* sp.

殻から出たコドネラ



TOPICS トピックス

きょうせいそうるい 共生藻類



ミドリソウリムシ

繊毛虫の中には藻類と共生しているものがあります。共生とはいっしょに暮らすことによっておたがいに利益を得られる関係をさします。多くの場合、クロレラ(*Chlorella*)などの緑藻ですが、それ以外の藻類との共生も報告されています。体内に共生藻類をもつことにより、繊毛虫は藻類が光合成によってつくられる有機物(有機物)をもらい、藻類は繊毛虫が排泄するリンやチンなどの栄養分(栄養分)を肥料(肥料)にしているものと考えられます。エサや肥料分が少ない時期には共生することによって、お互い生きながらえるものと思われます。人間も共生藻類をもつことができたなら、ひなたぼっこをしているだけでお腹がいっぱいになれたかもしれません。